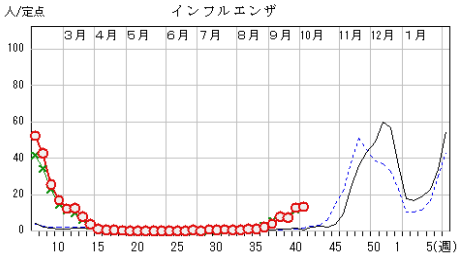
長崎県感染症発生動向調査速報(週報)

2026年第41週　　2026年10月5日（月）～2026年10月11日（日）2026年10月15日作成

☆定点※報告疾患（定点当たり報告数の上位３疾患）の発生状況

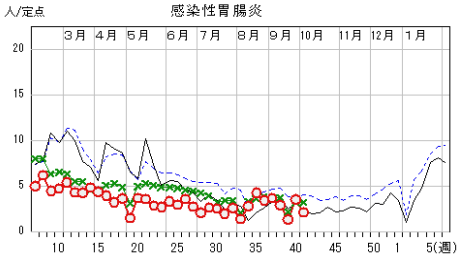
（１） インフルエンザ

第41週の報告数は663人で、前週より21人多く、 定点当たりの報告数は13.26であった。
年齢別では、10～14歳（111人）、５歳（63人）、４歳（46人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、五島保健所（29.00）、長崎市保健所（24.64）、上五島保健所（17.00）であった。



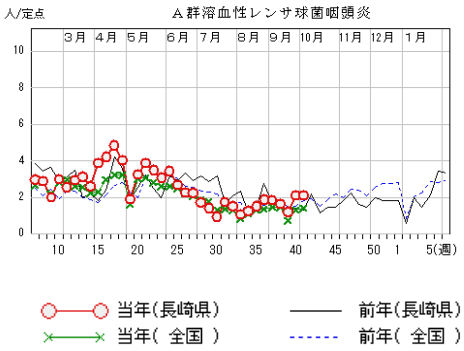
（２） 感染性胃腸炎

第41週の報告数は66人で、前週より43人少なく、 定点当たりの報告数は2.13であった。
年齢別では、１歳（11人）、1歳未満及び２歳（9人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、佐世保市保健所（6.00）、西彼保健所（5.33）、県北保健所（3.50）であった。



（３） Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

第41週の報告数は前週と同じ65人で、定点当たりの報告数は2.10であった。
年齢別では、６歳（12人）、４歳（9人）、３歳（8人）の順に多かった。
定点当たり報告数の多い保健所は、県南保健所（8.67）、県北保健所（3.50）、佐世保市保健所（3.00）であった。



※急性呼吸器感染症定点数：50、小児科定点数：31、眼科定点数：8、基幹定点数：12

☆上位３疾患の概要

【インフルエンザ】
第41週の報告数は663人で、定点当たりの報告数は13.26でした。県全体では第40週に注意報レベル基準値「10.0」を上回り、県地域保健推進課より**インフルエンザ流行注意報**が発表されました。地区別にみると、五島地区（29.00）は警報レベル、長崎地区（24.64）、上五島地区（17.00）、西彼地区（11.00）、県央地区（10.00）は注意報レベルの報告数となっています。
インフルエンザは、インフルエンザウイルスを原因とする気道感染症です。感染経路は、咳やくしゃみによる飛沫感染と、飛沫等に含まれるウイルスが付着した手指で自分の眼や口、鼻を触ることによる接触感染があります。1日から3日間の潜伏期間のあとに38度以上の発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉痛、関節痛などの全身症状が突然現れます。これに続いて咳、鼻汁などの上気道炎症が起こり、約1週間で軽快するのが典型的な症状です。
今後も手洗い・手指消毒、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策を励行し、予防に努めましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

【感染性胃腸炎】
第41週の報告数は66人で、定点当たりの報告数は2.13でした。地区別にみると、佐世保地区（6.00）、西彼地区（5.33）、県北地区（3.50）は他の地区より多くなっています。
本疾患は、細菌又はウイルスなどの病原微生物による嘔吐、下痢を主症状とする感染症です。原因はノロウイルスやロタウイルス、エンテロウイルス、アデノウイルスなどのウイルス感染による場合が主流ですが、腸管出血性大腸菌などの細菌が原因となる場合もあります。手洗いの励行とともに、体調管理に注意して感染防止に努め、早めに医療機関を受診しましょう。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】
第41週の報告数は65人で、定点当たりの報告数は2.10でした。地区別では、県南地区（8.67）が他の地区より多く、警報レベルの報告数となっています。
本疾患の好発年齢は5歳から15歳で、鼻汁、唾液中のA群溶血性レンサ球菌を含む飛沫などによってヒトからヒトへ感染します。また、食品を介しての経口感染もあります。潜伏期間は約1日から4日で、突然の発熱（高熱）、咽頭痛、全身倦怠感、時に皮疹もあります。症状がある場合は、早めに医療機関を受診するとともに、手洗いを励行し、感染防止に努めましょう。

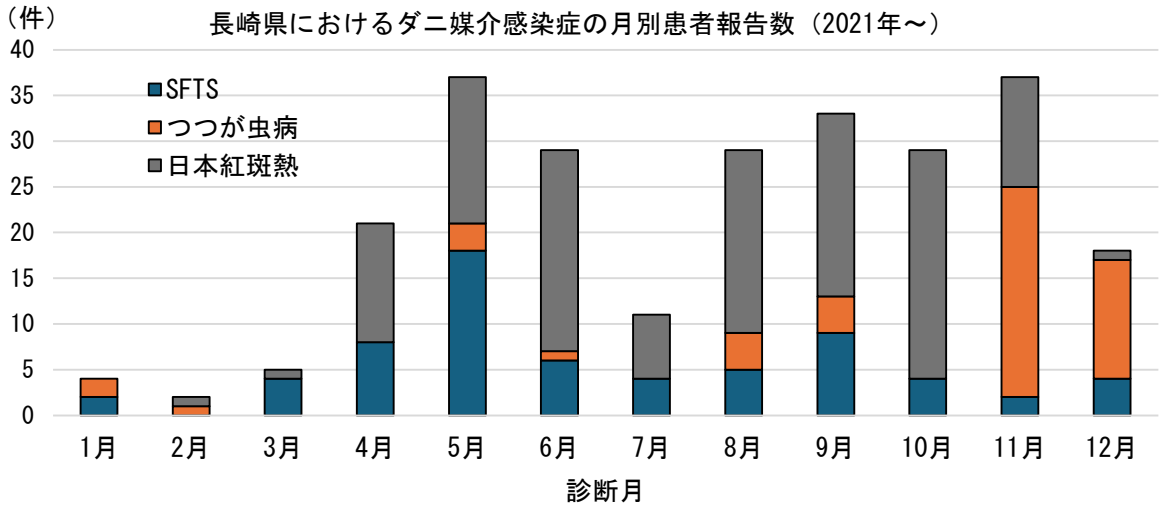
☆トピックス：マダニやツツガムシが媒介する感染症に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、野外の藪や草むらに生息しているダニで、野生動物が出没する環境に多く生息しているほか、民家の裏山、裏庭、畑やあぜ道などにも生息しています。マダニ類は「日本紅斑熱」や「重症熱性血小板減少症候群（SFTS）」を媒介し、ツツガムシ類は「つつが虫病」を媒介します。春から秋（3月から11月）にかけてはマダニ等の活動が活発になり、これらの感染症のリスクが高まります。
県内では、４月以降、SFTS 9件、日本紅斑熱 25件、つつが虫病1件の報告があがっています。
マダニ等が媒介する感染症の予防には、ダニに咬まれないことが重要です。野外で活動する際は、長袖、長ズボン、長靴を着用するなどして肌の露出を極力避け、マダニに有効な虫よけ剤を使用して感染防止に心がけましょう。もし、マダニ等に咬まれていたことに気づいた場合、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切に処置してもらいましょう。 また、咬まれた後に発熱等の症状があった場合は、速やかに医療機関を受診しましょう。受診した医療機関では、咬まれた状況などをできるだけ詳細に説明しましょう。
SFTSに関しては、近年、SFTSを発症したネコ及びイヌの症例が確認されており、これらの動物の血液や糞便からSFTSウイルスが検出されています。SFTS以外の感染症に対する予防の観点からも、動物を飼育している場合は過剰な触れ合いを控え、動物由来の感染に注意しましょう。

長崎県におけるダニ媒介感染症の発生件数

年	2021年	2022	2023	2024	2025	2026
SFTS	6 (6)	13 (10)	13 (10)	13 (11)	12 (11)	9
日本紅斑熱	28 (19)	22 (14)	14 (13)	24 (16)	25 (20)	25
つつが虫病	14 (4)	7 (0)	15 (6)	11 (3)	2 (0)	2

※（　）は第41週までの発生件数



☆トピックス：県内で日本脳炎の患者が発生しました

2026年10月14日に、今年県内初となる日本脳炎の患者が長崎市で発生しました。本県では2年連続の発生となりました。暑さのピークは過ぎましたが、ウイルスを媒介する蚊の活動時期は本県では秋ごろまで続きますので、蚊に刺されない対策をとることが重要です。

日本脳炎は日本脳炎ウイルスによって起こるウイルス感染症です。人はこのウイルスをもっている蚊（主にコガタアカイエカ）に刺されることによって感染します。

潜伏期間は6日から16日で、ほとんどの場合は無症状で終わりますが、発症すると数日間の高熱・頭痛・嘔吐・めまいがみられ、重症化すると意識障害・けいれん・昏睡などの症状とともに、死亡に至ることもあります。治癒した場合でも、麻痺等の重篤な後遺症が残ることもあります。

予防にはワクチン接種が最も有効です。定期予防接種は、市町の案内に沿って接種しましょう。任意接種することも可能ですので、かかりつけ医にご相談ください。また、蚊に刺されないように、網戸を閉め、蚊が家の中に入らないようにしましょう。蚊取線香や各種の虫よけ、殺虫剤等の使用も有効です。また、外出する際は長袖などを着て、コガタアカイエカに刺されないような工夫が大切です。

（参考）厚生労働省　日本脳炎
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/yobou-sesshu/vaccine/japanese-encephalitis/index.html

☆トピックス：インフルエンザを予防しましょう

2026年第41週（10月5日～10月11日）の患者報告数は663人で、定点当たり報告数は13.26となりました。県地域保健推進課は、10月8日に**インフルエンザ流行注意報**を発表しました。

地区別にみると、五島地区（29.00）で警報レベル、長崎地区（24.64）、上五島地区（17.00）、西彼地区（11.00）、県央地区（10.00）で注意報レベルの報告数となっています。

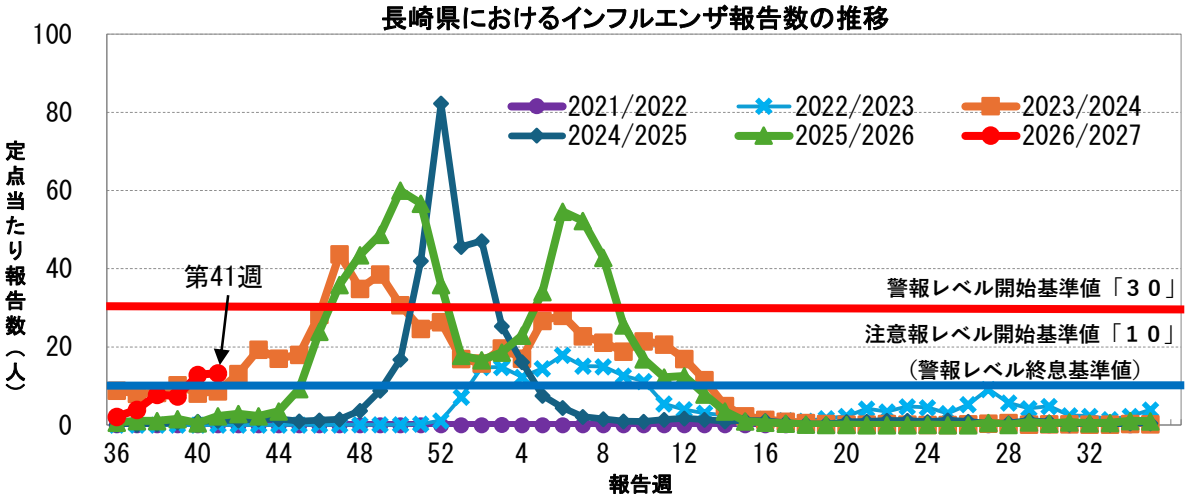
年代別では、10歳未満（51%）、10代（20%）が多く、小中学校の臨時休業が報告されています。

注意報が発表され、今後大きな流行が懸念されますので、手洗いの励行、適切なマスクの使用、換気などの基本的な感染対策に努め、感染予防を心がけましょう。また、インフルエンザワクチンは、発症及び重症化を一定程度予防する効果があります。希望される方は、ワクチンを接種しましょう。

（参考）厚生労働省　「インフルエンザ総合ページ」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryou/kenkou/kekkaku-kansenshou/infulenza/index.html

（参考）長崎県地域保健推進課　「2026/2027シーズンのインフルエンザ臨時休業措置等」
https://www.pref.nagasaki.jp/doc/52195.html

（参考）長崎県感染症情報センター　「インフルエンザ」
https://www.pref.nagasaki.jp/doc/page-685285.html



◆全数届出の感染症

2類感染症：結核　患者　女性（60代・1名）
3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症　無症状病原体保有者　男性（10歳未満・1名）　女性（30代・1名）
4類感染症：レジオネラ症　患者　女性（50代・1名）
5類感染症：カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症　患者　女性（60代・1名）

◆定点把握の対象となる５類感染症

（1）　疾病別・週別発生状況　　（第36～41週、8/31～10/11）

疾　患　名	定点当たり患者数					
	36週	37週	38週	39週	40週	41週
	8/31～	9/7～	9/14～	9/21～	9/28～	10/5～
インフルエンザ	2.12	3.90	7.72	7.34	12.84	13.26
新型コロナウイルス感染症	2.14	1.76	1.28	0.58	1.10	0.52
ＲＳウイルス感染症	1.06	1.16	1.10	0.61	0.81	1.06
咽頭結膜熱	0.35	0.13	0.32		0.32	0.26
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	1.87	1.84	1.65	1.19	2.10	2.10
感染性胃腸炎	3.42	3.68	2.94	1.35	3.52	2.13
水痘	0.23	0.13	0.42	0.03	0.61	0.26
手足口病	0.45	0.48	0.32	0.10	0.19	0.23
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.03	0.10	0.10	0.06	0.03	0.03
突発性発しん	0.29	0.52	0.39	0.23	0.29	0.26
ヘルパンギーナ	1.45	1.71	1.32	0.71	0.97	0.84
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03	0.03	0.03			0.03
急性出血性結膜炎	0.13	0.13	0.13			
流行性角結膜炎	1.63	2.25	2.13	0.63	1.25	1.50
細菌性髄膜炎					0.08	
無菌性髄膜炎						0.08
マイコプラズマ肺炎		0.33	0.17	0.08	0.50	0.17
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）						
感染性胃腸炎（ロタウイルス）						
急性呼吸器感染症（ARI）	56.88	59.56	65.82	42.00	60.38	69.10

（2）　疾病別･保健所管内別発生状況　　（第41週、10/5～10/11）※赤字：警報レベル、青字：注意報レベル

疾　患　名	定点当たり患者数（県・保健所管轄別）										
	県	佐世保市	長崎市	壱岐	西彼	県央	県南	県北	五島	上五島	対馬
インフルエンザ	13.26	7.00	24.64	6.33	11.00	10.00	8.25	4.33	29.00	17.00	1.67
新型コロナウイルス感染症	0.52	0.14	0.36	0.33		0.38	0.50	1.33	0.33		3.33
ＲＳウイルス感染症	1.06	1.50	1.17		2.33	0.60	2.67	1.00			
咽頭結膜熱	0.26	0.25	0.17				0.33	2.00			0.50
Ａ群溶血性ﾚﾝｻ球菌咽頭炎	2.10	3.00	0.83	0.50	2.00	0.80	8.67	3.50	0.50		1.50
感染性胃腸炎	2.13	6.00	0.67	1.00	5.33	1.60	0.33	3.50	2.00		
水痘	0.26	0.50		0.50		0.80					0.50
手足口病	0.23		0.83				0.33	0.50			
伝染性紅斑（リンゴ病）	0.03	0.25									
突発性発しん	0.26	0.50	0.33			0.40	0.33	0.50			
ヘルパンギーナ	0.84	0.75	0.83		1.33	1.00	0.67	1.00			2.50
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）	0.03		0.17								
急性出血性結膜炎											
流行性角結膜炎	1.50		1.33		5.00		3.00				
細菌性髄膜炎											
無菌性髄膜炎	0.08		0.33								
マイコプラズマ肺炎	0.17		0.67								
ｸﾗﾐｼﾞｱ肺炎（ｵｳﾑ病は除く）											
感染性胃腸炎（ロタウイルス）											
急性呼吸器感染症（ARI）	69.10	73.00	117.18	24.67	87.00	64.38	33.50	42.00	47.67	44.33	31.67